

地域水田農業の安定

県南農林事務所つくば地域農業改良普及センター

つくばみらい市、取手市、守谷市、利根町は総耕地面積の67%を水稲が占める、県内でも有数の水田地帯です。実需者から要望の高い県育成品種「ふくまる」の安定生産、需要に応じた米生産に向けた飼料用米の増収技術の普及、及び省力・低コスト生産技術として注目されている高密度播種育苗技術や直は栽培技術の普及について、生産者、農協と連携し取り組みました。その結果、高密度播種育苗栽培は165ha、直播栽培は6haへと拡大しました。

「ふくまる」で特色ある産地の育成

つくばみらい市、取手市、守谷市を管内とするJA茨城みなみは、県内最大の「ふくまる」出荷団体となっており、平成29年は生産者59名、作付面積104㍎で、大手回転寿司チェーンに全量出荷しています。実需者ニーズに対応するとともに生産者の所得確保のため、品質（千粒重23.5g以上）、収量（600kg/10a以上）の向上を目標に、肥料資材等の実証圃や現地検討会をとおして産地振興を図っています。



JA茨城みなみ管内ふくまる栽培講習会



利根町飼料用米流し込み施肥

飼料用米の安定生産

飼料用米拡大と安定生産を図るために、「流し込み施肥実証圃」、「鶏ふん堆肥施用による『月の光』収量確保実証圃」「稲こうじ病対策実証圃」を設置するとともに、現地検討会、水稻栽培講習会、水稻情報紙などにより、収量向上のポイントとなる移植時期の前進化や施肥改善について飼料用米生産農家へ広く周知しました。

省力・低コスト生産技術の実証・普及

担い手農家の規模拡大に伴い、育苗の省力、育苗期間の短縮、資材費の削減が大きな課題となっています。このため「高密度播種育苗技術」、「鉄コーティング湛水直播技術」について実証圃を設置し、水稻情報紙、全農広報紙、現地検討会を通して技術の啓発を図ってきた結果、高密度播種育苗栽培は165ha、直播栽培は6haへと拡大しました。引き続き更なる普及に取り組んでいます。



高密度播種育苗研修会